

## 2022年3月期 第3四半期決算概要

- 当第3四半期業績は、半導体等部品不足やエネルギー価格高騰の影響を大きく受けたが、値上げやコスト削減で軽減し、営業利益の黒字を継続。累計では前年同期比増収増益
- 通期業績予想は、第3四半期までの実績と事業環境の不透明感を踏まえ、売上高の上方修正、営業利益は下方修正。当期利益と純利益は、持分法による投資損益が好調のため据え置き、当社中期経営計画「リバイバル計画 24 (RP24)」の重点施策「財務基盤の回復」を推進
- 「リバイバル計画 24 (RP24)」に基づく構造改革の諸施策は順調に進捗  
東証プライム市場への移行決定済

### 1. 2022年3月期 第3四半期決算

- 第3四半期（10-12月期）の売上高は1,523億円（前年同期比+165億円、+12.1%）、営業利益は18億円（同△30億円）と黒字継続。自動車の半導体等部品不足、欧州の天然ガスを中心とした原燃料費高騰の影響を、建築用（欧州）ガラスの値上げや、全社的なコスト削減で軽減
- 累計の売上高は4,430億円（前年同期比+856億円、+24.0%）、営業利益は145億円（同+65億円）。バッテリーセパレーター事業譲渡等による個別開示項目利益の計上、持分法による投資利益もあり、純利益は86億円（同+226億円）。売上高、利益ともに前年同期から大きく改善
- 好調な事業業績等により自己資本比率は11.3%（前期末比+3.7pt）と11%超まで回復

#### <損益計算書および財務指標>

(億円)	10-12月期 (3か月)			累計 (9か月)		
	2021年 3月期	2022年 3月期	差異	2021年 3月期	2022年 3月期	差異
売上高	1,359	<b>1,523</b>	165	3,574	<b>4,430</b>	856
営業利益	48	<b>18</b>	△30	80	<b>145</b>	65
営業利益率	3.5%	<b>1.2%</b>	△2.3pt	2.2%	<b>3.3%</b>	+1.1pt
個別開示項目(COVID-19関連)	△12	-	12	△140	-	140
COVID-19関連個別開示項目後 営業利益 (△損失)	36	<b>18</b>	△18	△60	<b>145</b>	205
個別開示項目(その他)	10	△2	△12	2	<b>44</b>	42
個別開示項目後営業利益 (△損失)	46	<b>17</b>	△29	△58	<b>189</b>	247
金融費用(純額)	△21	△32	△11	△75	△90	△15
持分法による投資損益	10	<b>22</b>	12	8	<b>56</b>	47
税引前利益 (△損失)	35	<b>7</b>	△28	△125	<b>154</b>	279
当期利益 (△損失)	37	<b>10</b>	△27	△135	<b>105</b>	240
純利益 (△損失) *	34	<b>0</b>	△33	△139	<b>86</b>	226
EBITDA	135	<b>111</b>	△24	323	<b>422</b>	99
フリー・キャッシュ・フロー	56	<b>24</b>	△32	△286	<b>11</b>	296

\*親会社の所有者に帰属する当期利益 (△損失)

(億円)	2021年 3月末	2021年 12月末	増減
総資産	8,250	<b>8,588</b>	339
親会社の所有者に帰属する持分	629	972	343
自己資本比率	7.6%	<b>11.3%</b>	+3.7pt

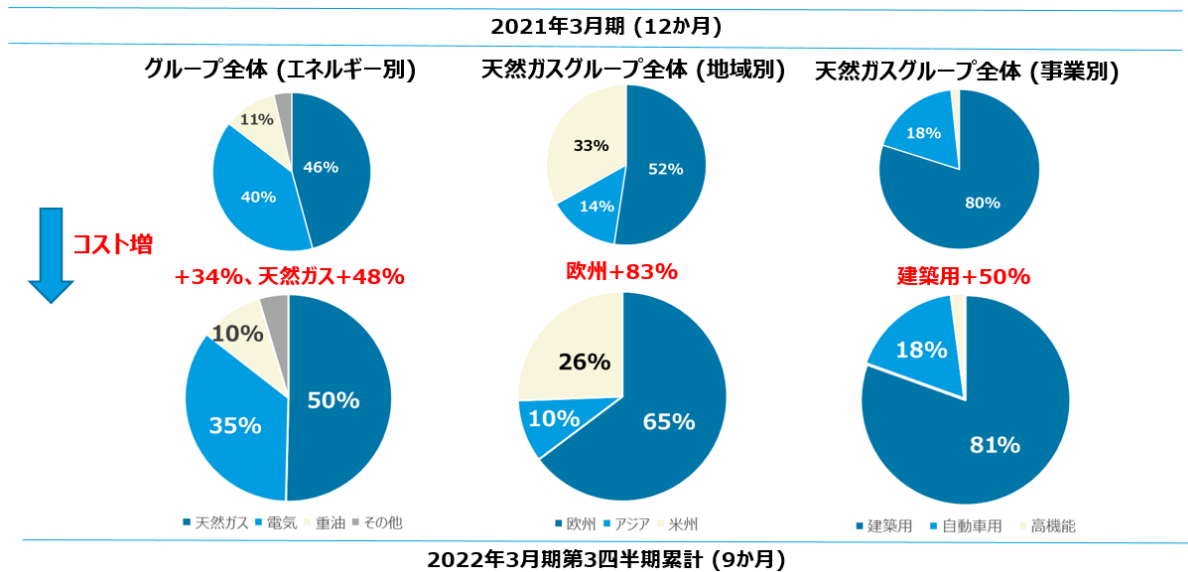
## <各事業の概況>

建築用ガラス事業	欧州をはじめ全地域で堅調な需要により大幅な増収を継続。エネルギー価格高騰の影響を受けるが、価格改善およびコスト削減により軽減し、大幅な増益を継続、2020年3月期を上回る。太陽電池パネル用ガラスの需要も引き続き堅調
自動車用ガラス事業	10-12月期は半導体等部品不足による自動車生産制約と原燃材料費高騰の影響により、コスト削減努力にもかかわらず減収減益、累計でも減益
高機能ガラス事業	COVID-19の影響があった前年同期から事業環境改善が継続、増収増益（9月以降は売却したバッテリーセパレーター除く）。特に在宅勤務、オンライン授業向けにプリンター需要が増加

(億円)	2021年3月期		2022年3月期		前年同期比	
	10-12月期	累計	10-12月期	累計	10-12月期	累計
<b>売上高</b>						
建築用ガラス事業	570	1,561	748	2,069	178	508
自動車用ガラス事業	683	1,736	681	2,033	△ 2	297
高機能ガラス事業	101	266	91	308	△ 10	42
その他	5	11	3	20	△ 2	10
<b>売上高合計</b>	<b>1,359</b>	<b>3,574</b>	<b>1,523</b>	<b>4,430</b>	<b>165</b>	<b>856</b>
<b>営業利益</b>						
建築用ガラス事業	42	115	68	204	25	89
自動車用ガラス事業	13	△ 11	△ 49	△ 59	△ 62	△ 49
高機能ガラス事業	20	45	21	78	1	33
その他	△ 27	△ 69	△ 22	△ 77	7	△ 8
<b>営業利益合計</b>	<b>48</b>	<b>80</b>	<b>18</b>	<b>145</b>	<b>△ 30</b>	<b>65</b>

## 2. 当グループにおけるエネルギーコスト上昇の影響

- 世界的にエネルギー価格が上昇、ドイツの天然ガス価格は2021年12月末で2021年3月末対比6.2倍に急騰、日本の重油価格は同42%上昇
- グループ全体では2022年3月期累計（9か月間）のエネルギーコストは2021年3月期通期（12か月間）と比較し、全体で+34%、特に天然ガスは+48%
- 地域別では欧州、事業別では建築用ガラス事業が天然ガスの使用量が大きく、コスト上昇の影響を受け易い



### 3. 2022年3月期 通期業績予想

- 第3四半期までの実績を踏まえ、売上高は上方修正。自動車生産の状況、原燃材料価格高騰を勘案し、営業利益は下方修正。持分法による投資損益の好調に支えられ、当期利益と純利益を据え置き、RP24の重点施策「財務基盤の回復」を推進
- 建築用ガラスは、良好な需給環境が継続するが、欧州を中心にエネルギー価格高騰の影響を受ける見込み
- 自動車用ガラスは、自動車需要は堅調ながら半導体等部品不足と原燃材料費高騰の影響を受ける追加コスト削減の継続により、損益改善を目指す
- 高機能ガラスは、事業環境の改善が継続

#### <業績予想>

(億円)	2022年3月期 Q3累計実績	2022年3月期 通期予想 (前回)	2022年3月期 通期予想 (今回)	2021年3月期 通期実績
売上高	4,430	5,600	5,900	4,992
営業利益	145	240	200	131
COVID関連個別開示項目後 営業利益	145	240	200	△ 30
個別開示項目（その他）	44	50	40	△ 53
個別開示項目後営業利益	189	290	240	△ 83
金融費用（純額）	△ 90	△ 130	△ 130	△ 110
持分法による投資損益	56	30	70	21
税引前利益	154	190	180	△ 172
当期利益	105	120	120	△ 163
純利益*	86	100	100	△ 169

\*親会社の所有者に帰属する当期利益（△損失）

### 4. RP24に基づく構造改革施策の進捗

- コスト構造改革：人員削減およびコスト削減ならびに自動車用ガラス事業での追加コスト削減が進捗
- 事業構造改革：太陽電池パネル用ガラスが収益寄与と同時に CO2 削減に貢献。  
アルゼンチン新フロート窯建設は、23/3 期の早い段階で本格稼働を目指し順調に進捗。  
ポーランドで再生可能電力の購入契約を締結、電力価格影響を軽減し CO2 削減に貢献
- 事業ポートフォリオ変革：高弾性・高強度ガラスファイバー「MAGNAVI®」を新開発、FRP 等複合材市場でのソリューションを目指す
- 東証プライム市場への移行決定済

<お問い合わせ> 広報部 Tel : 03-5443-0100